

特集
南西諸島

MESSAGE

私が生まれ育った奄美大島

私が育った奄美大島は、海も山も川もあって自然がいっぱいなところですよ。

奄美には小さな集落がたくさんあって（それをシマと呼びます）、それぞれ文化や言葉、訛りなども違います。シマごとの行事も盛んで、人手の少ないシマでは隣同士が助け合うなど、人と人の絆が強い地域だと思います。

私が生まれ育った集落は、街からかなり離れたところであって本当に自然豊か。小学校は全校生徒4人で、そのうち3人は我が家の姉妹でした（笑）。

街にある中学校には車で40分かかって通っていたのですが、同級生に「いつもどこから来てるの?」と聞かれたくらいでした。

シマには幼稚園も保育園もなく、親は隣町に仕事に行っていたので、小学校に入るまでは畑でおじいちゃんおばあちゃんたちに見守られて過ごしていました。

奄美の伝統民謡「シマ唄」を始めたのは小学生の頃。最初は町の公民館の三味線教室に通いました。毎週、街に行けるっていうのも大きな楽しみでしたね。街の子たちには遊ぶものがいろいろありますが、私はシマに帰ると何もないので、ひたすら三味線を練習していたら、あっとい

う間に上達しました。私が三味線を弾きながらシマ唄を口ずさむと、シマのおじいちゃんおばあちゃんがものすごく喜んでくれて、それが嬉しくて、どんどんシマ唄が楽しくなりました。

高校生の時には奄美の民謡大賞を頂いて、取材を受けたり、レコード会社からスカウトのお話があって、はるばる瀬戸内町の家まで来てくれた人もいましたが、その時は「そんな話は怪しい!」って母が追い返してしまいました……。

高校卒業後、「一度は島の外に出て何かを手にしてきなさい」と母に促され、姉が美容師だった影響もあって、私も美容師を目指して島を出ました。

就職したのは兵庫県の尼崎。尼崎には奄美出身の人たちがたくさんいて、就職先のオーナーさんや先輩方にも恵まれたので、島に帰りたいても寂しいとも思わなかったです。ただ、仕事で扱う薬剤が身体に合わず体調を崩してしまい、美容師の仕事が続けられなくなってしまいました。

仕方なく一度島に帰ろうと荷造りしていたら、荷物の隙間からいつかのレコード会社の人の名刺が落ちてきました。「そういえばこの人、本当に存在するのかな?」という好奇心で電話をかけてみたら、なんと家まで来てくれた

その人が電話に出たのです。本当に繋がったので驚いて、何か言わなきゃ、とつい口に出たのは「やっぱり音楽をやってみたいと思って……」。スカウトからもう2年も経っていたし、「遅いよ」と言われると思ったら「今すぐおいで」と言われて、「たった2年で都会に負けて帰ってきた」と言われるよりは、大きい勝負に出てみようかなと思って、上京することを決めました。

島を出てきた時から、「いつかは島に帰る」というのが漠然と自分の中にありました。戻ったタイミングは自然に「その時が来たのかな」というだけで、何か理由があったわけでもありません。島の人はいつか島に、と思っている人が多い気がします。やっぱり島の人同士の結びつきが強いのでしょうね。

デビューしてからテレビなどで「奄美大島出身です」と言っていたら、都会で頑張っている先輩たちから「やっ自分たちも堂々と奄美出身だって言える時が来たよ」「あなたのおかげだよ」と感謝されました。私は島で生まれ育ったことを誇りに思っていたので、どうして奄美出身と言えなかったのか尋ねると「島には何にもないから」と。

目の前の豊かな自然が自分たちには当たり前すぎて、その素晴らしさやありがたさに気付いていなかったんです。だから私は、島の外の人たちに発信する前に、まずは島の人に、島の魅力を発信しなければと思いました。

島に戻ってみると、新しい建物ができたり、トンネルが増えて便利になったりしていますが、今も自然はそのままですし、人と人との絆にも変わりはないです。

今、若い人たちがたくさんシマ唄を歌うようになっています。若い人たちの解釈や斬新な挑戦は私たちにとっても勉強になりますし、こうして今も奄美の文化が、脈々と受け継がれているのを感じます。だから、何にもない島って思わないでほしいし、この立派な文化を語り継いで、「こんなに魅力があるかっこいい島に生まれてよかった」と思ってもらいたいです。

奄美の魅力はたくさんありますが、なんといっても人がとにかく面白いこと。奄美に来たら、自然はもちろんですが、ぜひ人とも触れ合ってほしいと思います。地元の人と触れ合うにはスナックがおススメですよ!

元ちとせ HAJIME Chitose

プロフィール

2002年に「ワダツミの木」で鮮やかなデビューを飾り、以来、ボーカリストとしてさまざまなステージでその唯一無二の歌声と存在感を示している。2015年、平和への思いを込めたカバーアルバム「平和元年」が第57回日本レコード大賞企画賞を受賞。最新作は2022年リリースの5thアルバム「虹の籠」。

<https://www.office-augusta.com/hajime/>